

<p>平成29年 1月30日</p>	<p style="text-align: center;">病虫害発生予報 2月号</p>	<p>茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会</p>
------------------------	--	--------------------------------

農薬の誤飲に注意！

～他の容器に移し替えず，鍵のかかる専用庫に保管を～

＜ 目 次 ＞

<p>I. 今月の予報</p>	
<p>【注意すべき病虫害】</p>	
<p>イチゴ：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p>	
<p>促成トマト・促成キュウリ：灰色かび病・・・・・・・・ 1</p>	
<p>【その他の病虫害】</p>	
<p>イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ・・・・・・・・ 2</p>	
<p> </p>	
<p>II. 今月の気象予報</p>	<p>3</p>
<p> </p>	
<p>最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病虫害防除所 Tel :029-227-2445 予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、寄生葉率(本年値 9.2%, 過去8年平均値 15.9%)は平年並で、被害葉率(本年値 25.3%, 平年値 14.1%)は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を導入している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成トマト・促成キュウリ

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並(促成トマト)	県下全域
	やや多い(促成キュウリ)	

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、促成トマトにおける発病株率(本年値 0.4%, 平年値 0.5%), 発生地点率(本年値 10%, 平年値 9%)ともに平年並である。
- ② 1月下旬現在、促成キュウリにおける発病果率(本年値 0.2%, 平年値 0.1%), 発病株率(本年値 0.4%, 平年値 0.3%)ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿の場合に発生しやすいので、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：やや少ない	1月下旬現在， 平年よりやや少ない発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：少ない	1月中旬現在， 平年より少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並	1月中旬現在， 平年並の発生である。
促成トマト	葉かび病	発生量：多い	1月下旬現在， 平年より多い発生である。多湿の場合に発生しやすいので，暖房，送風，換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
促成キュウリ	うどんこ病	発生量：平年並	1月下旬現在， 平年並の発生である。
	べと病		
	褐斑病	発生量：平年並 ～やや少ない	1月下旬現在， 平年並～やや少ない発生である。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 1月28日から2月27日)

気象庁 (1月26日 発表)

< 向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	30	50
	降水量	関東甲信全域	40	30	30
	日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

< 1 週目の予報 > 1月28日(土曜日)から2月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 80%

< 2 週目の予報 > 2月4日(土曜日)から2月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 2月11日(土曜日)から2月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類^{*}(FRACコード, IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成28年4月28日発表)の防除所レポートを参照してください。